

八甲田山スキー

h.15.3.31. ~ 15.4.4.

参加者 M夫妻

1日目：

ガスでほとんど視界なし。仕方なく、指導標の完備しているフォレストコースとダイレクトコースを滑る。フォレストコースは最初のうち急斜面だが、すぐに緩斜面のトラバースに入る。森の中をのんびり滑っていく感じが気持ちよい。真ん中あたりからはその森も開けた感じになり、明るい適度な斜面の続くコースだ。

ダイレクトコースは、ロープウェイからすぐに急斜面となり、そのままロープウェイの出発駅まで滑り下りる感じになる。まさにダイレクトに頂上駅から出発駅まで滑ることになる。我々が滑ったときはコブはほとんどなく適度な斜面が下まで続くいいコースだった。

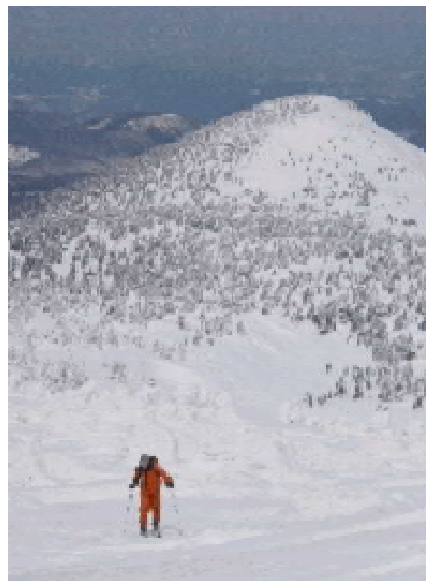
2日目：

田茂范岳山頂付近はガスがかかり視界はきかないが、下の方は晴れているのが分かっているので銅像ルートを滑ることにした。

滑り出しの急斜面ではあたり一面真っ白の中で突然足下の雪がなくなったかと思うほど切れ落ちたところがあり転倒したが、前嶽をトラバースしたあたりから晴れ間が見え出し、目標の建物も見渡せるようになった。しかも、それまであったトレースはすべて火箱沢林道に向かっているようで銅像ルートへ向かう竹竿の方にはまったくトレースがない。真っさらの雪面を自分たちだけのトレースを描くのはたいへん気持ちがいい。斜度も適当で木もまばら。どこでも好きなところを選んで滑ることが出来る。しばらく滑ったところ上の方から声が聞こえる。ガイドに連れられた連中が竹竿のコースをはずし、行き過ぎたところから大斜面を滑ってくるのだった。さすがにガイドはおいしいところを選んで滑らせるものだ。我々はそれを無視してどんどん先行する。



ロープウェイ付近より赤倉岳・井戸岳



途中からは緩斜面で木の密度も増してくるので、ひたすら道路まで黙々と滑って行く。実は今道路まで滑って行ってもバスは開通していないので、ロープウェイまでは1時間～1時間半ほど歩いて戻るつもりだった。

ところが、道路まで行ってみると先ほどのガイドツアーのために小型バスが待機している。ダメ元精神で運転手に頼んでみることにした。すると快くOKの返事。ヤッター！ロープウェイの駅まで苦労することなく帰れることになった。しかも、時間がたっぷり余ってしまったので、再度ロープウェイに乗り他のコースにチャレンジできることになった。八甲田スキースクールに感謝！



明日のことも考え、赤倉岳を越えて大岳環状ルートに行くことにした。赤倉岳へもトレはまったくなかった。2人だけのトレースを付けながら中腹まで登ったが、ややガスが多くなってきたこともあり、乗り越すのは止めにして赤倉岳・井戸岳を巻くことにした。勿論こんな所に行くものは誰もいない。井戸岳の最後の方はシュカブラが発達して通過しづらい。

少し回避しながら避難小屋の近くまで行き、大岳環状ルート後半部分を通って酸ヶ湯温泉を目指すことにした。ここでもトレースはまったくなし。ときたま現れる樹氷の間を縫いながらやはり好きなコースを滑って行く。宮様ルートと合流したところで2人組のパーティと会っただけだった。

3日目：

今日は快晴。一番のスキー日和だ。今日は赤倉岳から谷地温泉に向かう。赤倉岳へは昨日の我々のトレースだけだ。稜線に出ると田代平方面が一望できる。こちらはかなり急峻でスキーの対象にはなりにくい。赤倉岳は山頂付近で痩せた尾根を少しだけ通過しなければならないが緊張するほどのことはない。山頂からは一旦稜線上を箒場ルートへ向かい、途中から小岳と高田大岳との鞍部へ向かってトラバースすることになっているが、その間に深い沢の切れ込みが見えたので、早々とトラバースして鞍部を目指すことにした。



ところが快適な大斜面をしばらく滑って切れ込みをクリアした後さらなる深い切れ込みに遭遇する。こんなことならいっそのこと稜線を1100m近くまで滑り込んでから、鞍部に登り返す方が快適だったかも知れない。

地温泉から高田大岳を振り返る

この鞍部では今日初めて2人組のパーティ2組と会う。ここからはトレースも結構残っている。小岳を經由してきた者ばかりのトレースだ。高田大岳はかなり急斜面でこの時間の登りは結構きつい。下の方は樹氷の間を快適に登って行けるが、山頂付近は樹氷もなくなり風通しがよくなってクラストした雪面が手強い。

山頂の祠で小休止した後谷地温泉を目指す。前のパーティが少しためらっているのが見える。山頂からは下の方がまったく見えないが、なるほど少し滑ってみると500mほど木もなく急斜面が続いている。新雪だと一枚バーンの快適な斜面となるのだろうが、今日は少しクラストしており転倒するとかなり下まで止まりそうもない。妻は階段下降で慎重に下る。後で聞いたところ、このコースが八甲田の中で一番難しいルートらしいが納得できるところだ。斜度が緩くなってからは適度に樹氷も現れ楽しいスキーとなる。林の中に入ってしまうと20分ほどで谷地温泉だ。谷地温泉は酸ヶ湯温泉と同じ泉質のひなびた小さな温泉だ。ここからは青森駅と十和田湖を結ぶバスに乗って酸ヶ湯温泉に帰ることが出来た。



田茂范岳からの滑降

4日目

今日も快晴で快適なスキー日和だ。時間があるのでカモシカと小岳ルートを滑ることにした。

カモシカコースは酸ヶ湯温泉へ向かう中央ルートを毛無岱まで滑りそこから寒水沢に沿ってロープウェイの出発駅まで戻るコースだ。こちらはたくさんのトレースが残っているが、滑っているのはやはり我々だけだ。途中で寒水沢から離れ、また下の方で寒水沢に向けてトラバースすることになったが、山スキー初心者にもってこいのコースだ。それにトラバースの途中では生まれて初めてテンに会った。ちょっとした穴に隠れていたのだろう、たまたま止まって妻に声をかけたとき、その声に驚いてほんの1.2mのところから飛出して逃げて行った。ふさふさとした毛並みで縫いぐるみとは段違いのかわいらしいさだった。

さて、もう一度ロープウェイに乗り今度は田茂范岳の山頂から大斜面を滑って宮様ルートと合流する。しばらく宮様ルートに沿って滑った後、井戸岳と大岳との鞍部にある避難小屋を目指してシール登行する。この避難小屋は我々が着いた当初完全に雪が凍りついていたのだが、最近の天気よさに雪も解けきれいな姿を見せている。小屋の中もすごく清潔で救助用のスノーボードも完備されていた。ここから大岳の中腹を巻いて小岳との鞍部まで滑り込む。トレースはいっぱい残っているが本当に人がいない。鞍部から小岳の登りは蔵王に似てきれいな形の樹氷を縫って行く。振り返ると大岳や井戸岳の勇姿がすばらしい。小岳山頂では近所に住むというおっさんが犬を散歩に連れて来ていた。小岳からは高田大岳の鞍部に向けてしばらく滑り、鞍部の手前で猿倉温泉への大斜面に行くことになる。目指すところさえ外さなければどこを滑ってもよい。このルートはめずらしくバス道ぎりぎりまで木がまばらで滑りやすいルートだった。スキーをはずして最後にストンと道路に滑り下りてフィナーレとなる。猿倉温泉へはバス道からまだ10分程歩くことになるので、今回はパスして酸ヶ湯温泉に戻った



雪が少し解けてきた避難小屋



小岳より赤倉岳と井戸岳



小岳の樹氷

5日目

今回は思いのほかたくさんのルートを滑ることができ十分満足したので、最終日はスキーを止めて奥入瀬渓谷と蔦温泉に行くことにした。帰りのバスの時刻を間違えタクシーを呼ぶハプニングはあったが、思い出の奥入瀬渓谷と25年ほど前とほとんど変わっていない蔦温泉を堪能でき満足の行くスキーツアーも終わりを告げた。